

東太平洋戦没者の碑



マーシャル方面遺族会
 (旧クェゼリン方面戦没者遺族会)
 郵便番号 154
 世田谷区野沢 3-11-3
 電話 03-424-4300
 振替口座東京 0-93487 番
 編集兼発行人 佐藤宗丕

東太平洋戦没者の碑

竣工並びに追悼式 式辞

本日、ここに、東太平洋地域において戦没された方々の御遺族をはじめ、マーシャル諸島共和国政府関係者各位等多数の御参列を得て、東太平洋戦没者の碑竣工並びに追悼式を挙行いたしますことは誠に意義深いことと存じます。

かえりみえますれば、さきの大戦において、マーシャル諸島、ギルバート諸島など東太平洋地域の島しょ及びその海域において多くの国の人々がその祖国のために殉じ、また多くの市民の方々が戦禍にまきこまれて亡くなられました。

今、この地に立って往時を偲びますとき痛恨の情切々と胸に迫るのを禁じえないのであります。

日本政府は、この地域におけるすべての戦没者を偲び、かつ、多くの人々の犠牲を経て築かれた、今日私たちが享受している平和の尊さを深く認識しつつ、とこしえに戦没者の霊をお祀りするとともに、恒久平和を祈念するため慰霊碑を建立したいと希望しておりましたところ、マーシャル諸島共和国政府及び関係各位の深甚なる御理解と御協力をいただき、ここマジュロ島の美しい地に慰霊碑と平和公園の竣工を迎える運びとなった次第であります。

この碑と平和公園は、日本とマーシャル諸島両国の揺ぎない親善と国際平和の尊さの認識を後世の人々に伝える証になることと確信するものであります。

世界の情勢は、地域的には緊張と抗争の関係もみられますが、一方では平和を何物にも替え難いものと信する諸国による緊張緩和の粘り強い努力も続けられております。日本国は、平和主義を国是として皆様の国をはじめ世界の諸国と相携えて国際連帯による平和確立への途を歩んでゆく所存であります。これこそが、この地に尊い生命を捧げられた戦没者に報いるために果すべき諸国民の責務であると信じます。

最後に、戦没者に対し心から追悼の誠を捧げますとともに御遺族の方々に対し衷心より弔慰を表し、今後の御平安を切に祈念いたします。

昭和五十九年三月十六日

厚生政務次官 湯川 宏

目次

東太平洋戦没者の碑	
竣工・追悼式 式辞	1
東太平洋戦没者の碑	
竣工・追悼式 慰霊巡拝	2
竣工式・追悼式・慰霊巡拝	
に参加して	
富田 ミツ	3
村堀 光栄	4
奥田 和広	5
橋 ハルキ	5
服部くにゑ	6
黒川 直吉	6
山内 キク	7
鳥丸 栄二	7
井沢 なを	7
甲斐キミエ	7
大森 百与	7
浮田 桜代	8
西村 金一	8
田中 雄吉	9
南瀛マリア観音像建立の経緯	
源覚寺の戦没者慰霊祭に	
参列して	
井上 賀雄	9
昭和59年 四十年祭総会直会	10
靖国神社でこう考えました	
書問志津子	11
マーシャル方面遺族会会則	12
毎年、の慰霊祭は二月第二	
日曜日にて一會改正	12
マーシャル諸島情報	13
寄附者芳名	14
事務局だより	16
日本遺族会の戦跡巡拝計画	16

東太平洋戦没者の碑 竣工・追悼式

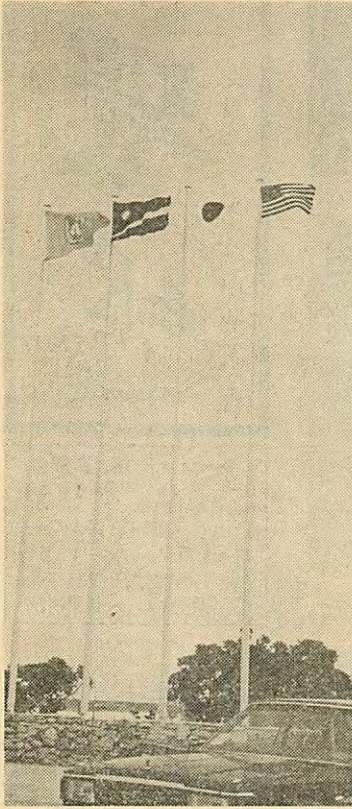
マーシャル諸島 慰霊巡拝 ギルバート諸島

本会結成の時から私どもが熱望していた政府による現地慰霊碑の建立がこの程漸く実現し、3月16日に竣工・追悼式が行われ、本会会員多数が参列、引続いて縁故地への慰霊巡拝をして3月22日、全員無事帰国しました。

東太平洋戦没者の碑

政府は、東太平洋地域（マーシャル諸島及びギルバート諸島とその周辺海域）で戦死した人々の霊を慰め、平和への誓いを新たにすするため、マーシャル諸島のマジュロ島のほぼ中央部に慰霊碑を建立した。

敷地約四千方米はマジュロ平和公園と名付けられ現地の人々の憩いの場となっている。



慰霊巡拝

碑の設計は建築家菊竹清訓氏、銘板は尾川 宏氏、施工は東海興業㈱で、58年9月9日に着工し、59年3月16日に竣工した。建設費は約八千七百万円で、今後この施設の維持管理は政府の委託によりマーシャル諸島共和国が行うとのことである。

竣工式並びに追悼式

3月16日、平和公園上空に国連旗、マーシャル国旗、日章旗、星条旗がはためいて民族の友好親善を思わせる。碑の左右に、はるばる日本から空輸された天皇・皇后陛下御下賜の菊花が飾られた。（1頁の上）

17時10分、厚生省援護局庶務課の浜松課長補佐の進行によって式典が進め

られる。

先ず、湯川厚生政務次官から政府を代表して式辞（1頁の下）が述べられ次に、マーシャル諸島共和国アマタ・カブア大統領から式辞があり、つづいて厚生省援護局の石井業務第二課長から慰霊碑建立の経過が詳細に報告された。

つづいて碑の除幕となり、星野貞雄さん（父がウォッセで戦死）と田中正栄さん（父がギルバートで戦死）の男女2人によって白布が払われ、生と死の接点を意味したという碑が現われた。

ここで一同起立して、東太平洋地域

戦死者の御霊安かれとお祈りをする。次に湯川政務次官が内閣総理大臣の花輪を捧げ、アマタ・カブア大統領夫妻も又花輪を捧げられた。次に追悼の辞を柄越（つかごし）在アガナ日本国総領事と、遺族代表の松木孝子さん（夫がクエゼリンで戦死）が述べた後、参列者全員が献花して、17時40分式典は厳粛の裡に滞りなく終了した。

待ちに待ったこの日の盛儀に英霊も御感応のことと拝された。

式典と巡拝の行程概要

3月14日15時厚生省に集合、結団式、説明会。小雪のちらつく中をバスで成田へ。成田プリンスホテル泊。

15日 10・25成田発（CO五六二便）サイパン、グアム、トラック、ポナペ、クエゼリン経由 24・00マジュロ着

16日 00・30サンホテル着、09・30よ

り島内巡り（1班、2班別行動）

17・10 | 17・40竣工・追悼式II前掲1班（マーシャル班）は乗船が入港遅延のため出発延期となる。1班の男性はマイクロ・パイロット号に宿泊、その他全員サンホテルに宿泊

17日 2班（ギルバート班）は10・00チャーター機でマジュロ発、キリバス共和国タラワに向う（以下別掲）

1班は島内巡り、慰霊碑参拝

18・27マーシャル政府の所有船マイクロ・パーム号（六〇八トン）に乗船。予定より24時間遅れて、20・10マジュロ出港。

18日 07・20マロエラップ環礁タロア島着 07・50上陸、慰霊祭、09・00離島、09・25出港

17・56ウォッセ環礁ウォッセ島着

18・10上陸 慰霊祭、19・30離島

19・45出港

19日 11・30クエゼリン島着 慰霊祭

大里様宅で少憩 13・20出港

14・00海上慰霊祭

20日 17・10マジュロ帰着。2班と合流し、日系人グループ主催のパーティーに招待され、交歓。意義深い直会となる

21日 13・47マジュロ空港発（CO557）クエゼリン、ポナペ、トラック経由

18・10グアム着 グアムプラザホテル泊

22日 07・20グアム空港発（CO561）サイパン経由10・52成田空港帰着

ギルバート巡拝の2班

17日 12・15タラワ空港着、新藤様(国際協力事業団技術員)御夫妻に迎えられオンスタイホテルで昼食、小休止の後ベンオ島の、シーメンズホステルに向う。

18日 10・00南瀛の碑の前で慰霊祭の後、本会会員はマリア観音像の除幕式を行う。13・30よりベンオ島内の戦跡巡り。

19日 10・00チャーター船で、タラワ環礁内海で海上慰霊祭。オンスタイホテル泊。

20日 10・10チャーター機でタラワ空港発、11・00マキン環礁プタリタリ島着、慰霊祭を行う。後、現地住民の歌、ダンスの歓迎をうけ、13・55同島発、15・40マジュロ空港に帰着して、1班と合流。

巡拝団員名簿

第1班(マーシャル班) 26名

- 浜野 朔(団長・厚生省)
- 本田 機先(厚生省)
- 妹尾 泰治(日本遺族会代表)
- 佐藤 宗丕(マーシャル方面遺族会)
- 松木 孝子 富田 ミツ 井沢 なを
- 黒川 直吉 栗原 利雄 栗原 フサ
- 坂本 美枝子 水野 はな 村梶 光栄
- 星野 貞雄 池田 まさ 服部 くにゑ
- 秋山 正清 奥田 和広 橋 ハルキ
- 橋 賦 金子 サヨ子 金子 庄之助
- 山下 タエ 甲斐 キミエ 山内 キク

鳥丸 栄二

△第1班添乗員▽

日通航空 石川 征男

第2班(ギルバート班) 17名

中川 昇(厚生省)

白川 福一郎(厚生省)

浮田 信家(マーシャル方面遺族会)

奥山 キノ 倉橋 たみ 日出山 光

長尾 静子 滝 知道 浮田 桜代

鈴木 茂 小泉 輝光 及川 よね

田中 雄吉 田中正栄 西村 金一

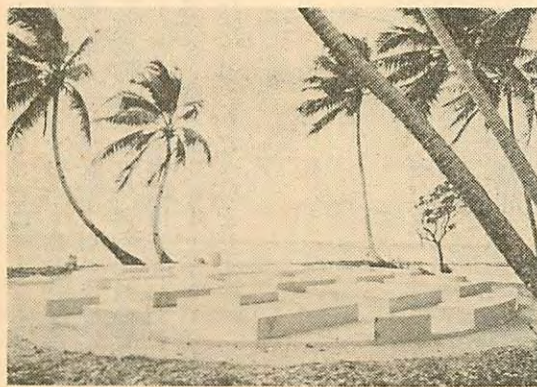
大森 百与 島袋 ヒデ

△第2班添乗員▽

日通航空 平山 三郎

マジュロ島の

東太平洋戦没者の碑の北側広場



竣工式・追悼式・慰霊巡拝に参加して

参加した皆さんから記録や感想文、礼状など沢山頂きました。行程や行事などの記述は当然殆ど同文でしたので前掲のとおりまとめました。

紙面の都合で、カットしたものが載せられないものもありましたが、御了承下さい。

(マロエラップ) 富田 ミツ

東太平洋戦没者の碑竣工・追悼式・慰霊巡拝に参加させて頂き誠に有難く感激で胸一杯でございます。

マジュロの島の青く澄みきった空と海、椰子の木の下に楽園のような地に慰霊碑は祖国日本を見つめて建立されて居り、式典は厚生省の湯川政務次官、マーシャル諸島共和国大統領閣下御夫妻ほか多数の高官及び関係来賓の参列を得て盛大且つ厳かに行われました。

この式典に遺族代表として出席出来ましたことを心から感謝いたしております。又厚生省職員の皆様、日本遺族会、マーシャル方面遺族会浮田会長、佐藤副会長様には一方ならぬ御世話を賜り改めて厚く御礼を申し上げます。式場にははるばる日本から特別持参の天皇、皇后両陛下の生花と、内閣総理大臣、厚生大臣ほかの花輪が供えら

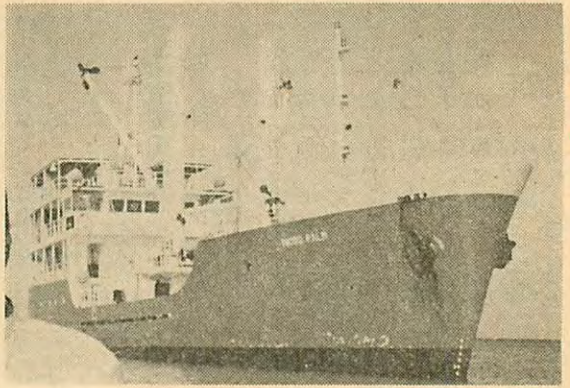
れマーシャル諸島共和国大統領御夫妻ほかによる献花もあり、華やかにしておごそかに式典が行われました。

マーシャル及びギルバート諸島と、その海域で散華された英霊は三万余柱に及ぶ由。戦後すでに四十年を経過致しましたが御霊は今迄は寄りどころもなくさまよっていたであろうと思っ居りましたが、今日からは必ずやこのマジュロに建立された碑の下で祖国日本を見つめて安らかに眠られることと思ひ、胸のつかえがおりましたようです。私達遺族にとりまして誠に喜びに堪えません。

翌3月17日夜から20日迄慰霊巡拝にてマロエラップ、ウオッセ、クエゼリの島々を船で廻りました。その際の船酔は思ひ出すとつらくなりますが、それは別として、私はクエゼリンからの帰途船酔でウトウトしているわずかな時間に夢を見ました。

それは戦闘帽をかぶった弟が米兵と一緒に波間に浮んでは消え、消えては浮び私の顔をみつめては「ニッコリ」笑って流れて行って終いました。戦死以来一度も弟の夢を見たこともなく軍服姿も写真以外見たこともないのにどうした事でしょう。あの広い太平洋の紺碧の海に大勢の日本兵が浮き沈みし

マイクロ・パーム号

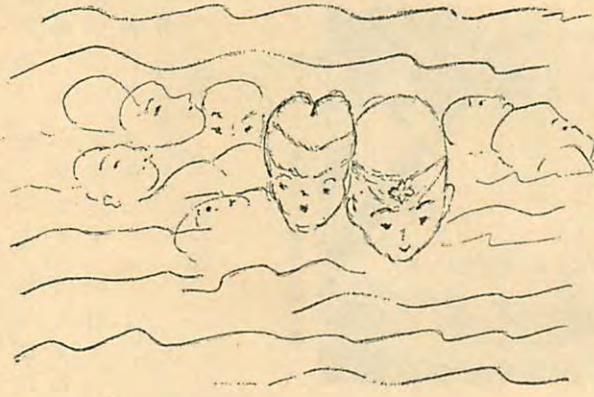


ている中で米兵と弟の顔だけがハッキリ見えたのです。声を掛けようと思っ
ている中に波間に沈み見えなくなりま
した。目が覚めましたら夜の十二時頃
でした。その姿が臉に焼きついている
うちにと思いい下手なスケッチを致しま
した。

帰国後姉妹や知人にこの話を致した
所笑っていた顔はきつと感謝していた
のでしようと慰められました。が、私も
きつと嬉しくて夢で逢うことが出来た
のだと思っております。慰霊巡拝をし
たことが英霊に通じ夢で逢わせてくれ
たものと信じて居ります。この夢を見
たことで今回の巡拝参加の意義が一層
深められた感が致しました。

今後機会あるごとに一人でも多くの
遺族の方々がマジュロ島の慰霊碑にお
詣り出来ます様念じて居ります。

浜野団長様はじめ同行団員の皆様の
おかげにて無事帰国出来ましたことを
感謝致し厚く御礼を申し上げます。本当
にありがとうございます。



(クエゼリン) 村 梶 光 栄

歓呼の声に送られて後も振り返らず
に列車に乗り込んで発って行った兄。
その日の事が今も臉にやきついて居り
ます。昭和19年2月6日、クエゼリン
島で玉碎、帰らぬ人となりました。あ
れから四十年。この度東太平洋戦没者

の碑の竣工追悼式と玉碎諸島の慰霊巡
拝に参加出来ましたのは感激の一語に
尽きます。

3月16日、マジュロ島の紺碧の海原
に近く椰子の葉蔭に格調の高い慰霊碑
が建立されました。天皇皇后両陛下の
御花が供えられており、式典は厚生省
湯川政務次官以下職員の方々、そして
マーンシャル諸島共和国大統領御夫妻は
じめ高官及び関係者の皆様、遺族、島
民の方々の参列の下に盛大且つ厳かに
行われました。

今回のこの日本政府による慰霊碑の
完成に至る迄の皆様方の御苦労は並大
抵なものではなかったであろうと深く
感謝するものでございます。

式典後マーンシャル、ギルバートの両
班に分かれ慰霊巡拝に出発致しまし
た。マーンシャル班は船舶での巡拝でし
たが出航が一日遅れた為、行程が心配
されましたが天候にも恵まれマロエラ
ップ島及びウォッゼ島では島民の方々
の出迎えを受け各々無事に慰霊祭を済
ませることが出来ました。

19日は英霊の待つクエゼリン島に向
きました。かねてから亡き母の念願で
もありました現地参拝が叶い、御世話
下さる現地の方々により美しく清掃さ
れた慰霊碑の前に額ずきお詣りした時
には、今迄張りつめていた気持ちが一
度に涙となつてこみあげてどうするこ
とも出来ませんでした。

内地から持参した靖国神社のお水と

神酒、各自持参のお供え物、私も兄が
好物だったタバコ、家から持って来た
お水、ローソク、お線香、お菓子等々
所狭ましとお供え物で一杯になりました。

クエゼリン島は艦砲射撃や爆撃、飛
行機による機銃掃射と砲火のため焼き
つくされ椰子の木が一本だけ残ったと
のこと、誰れ一人生き残ることの出来
なかつた状況の中で兄もその内の一人
でした。

悠久の大義に生きようと玉碎散華さ
れた戦士の皆様の胸中を思いながら、
この目でこの地を確かにお詣り出来ま
したことは感無量でございます。

富山県を代表してお詣りした私「み
たまよ心安らかに眠り下さい」と心
からお祈りいたしました。

現地でお世話下さる大里様御夫妻と
徳原様が御同行下されお話を伺いな
がら島内を一周尽きぬ想いに名残り惜し
く感謝しお別れして本船に戻りまし
た。

船は一路マジュロに直行し予定通り
着き、ギルバート班と合流その夜は現
地の山村様、ドクター前田様ほか皆様
がお別れパーティーを催して下さいま
した。

澄んだ瞳の現地青少年の方達が国歌
斉唱そして歌と踊りを披露。又大人の
方の日本語での童謡や軍歌のお上手な
のに只々驚くばかりでした。楽しく和
やかなひとときを過ごし一層の親睦が

出来ました。

22日グアム島經由帰国。平和な日本に任める今日のこの喜びを心から感謝するものでございます。二度と戦争はしてはいけないのだと強く心に誓うのでした。無事巡拝を終え帰国出来たこともきつと英霊が私達をお守り下さったものと思えます。大変御世話様でした、心より御礼を申し上げます。

(クエゼリン) 奥 田 和 広

私達、マーシャル班は三月十七日、夜八時マジュロ港を出て、マロエラップ、ウオッセ、クエゼリンを巡拝し、二十日夕方、マジュロ港に帰りました。

地図では粟粒をまいたように見えるマーシャルの島々も、実際に来て見ると、それぞれが広大な環礁で成り立ち、水道から礁内入っても尚主島迄は数十キロもあり、改めて太平洋の広さを痛感させられました。

環礁内は波も静かで穏やかな海面も一旦、外洋に出るとさすがにうねりも大きく、波や風と格闘するように航行する船のエンジンやスクリーナーの音も今も耳底に残っております。

夜に日をついで三日間の旅は、可成りの強行軍でしたが、四十数年前、私達の肉親が日本の港からはるばるこの環礁に来て同じ水道を通過してこの棧橋を踏みしめたのかと思うと感慨も一入(ひとしお)でした。

マロエラップは終戦迄、米軍の侵攻

こそ受けませんでした。補給が途絶え、想像を絶する苦難を強いられた所と聞きましたが、今、目の辺りには緑濃い椰子が碧い海に映え墓地迄の浜辺の道のりは地球上にもまだこのように美しい海があるのかと思う程でした。

ウオッセでは大勢の島の人達がレイを持って出迎えてくれました。ここもマロエラップと同じように基地航空隊があり十字に交叉する飛行場跡、爆撃をうけた廃墟もありました。

クエゼリンは二ヶ月も雨が降らないとかで強い太陽が照りつけておりました。

懐しい大里さんご夫妻、徳原さんが

出迎えてくれました。

慰霊碑の芝もとところどころ赤茶けていましたが綺麗に手入れされ靖国神社のご神酒や日本の菊の花等故郷の香りをお供え黙禱を捧げました。大里さんが「ゆっくりして行きなさいよ」と親切に言って下さいましたので、全員がお宅で飲物をご馳走になりました。

船がクエゼリン環礁の北水道を出た所でエビゼ、ルオット、ブラウン島戦死者の慰霊祭を行いマジュロに向かいました。

今回の慰霊巡拝は厚生省援護局の計画で私達は幸せにも参加することが出来ました。

美しい珊瑚礁の海も心ゆく迄見ることが出来ました。又星空に輝く南十字星も見えました。マーシャル、ギルバート諸島で散華された英霊は三万余柱と言われております、それからもう四十年になります。

この度、マジュロの平和公園に建立された、東太平洋戦没者の碑を設計された菊竹清訓氏は「生と死の出逢い」をテーマにして制作されたといいました。巡拝中、月齢は十五日で満月が煌々と輝いておりました。

ここに眠る英霊もかつて戦陣にあつて一刻は月を見て故郷を思い、又、伝えたかったことも一杯あったと思えます。この巡拝の旅で自分なりに確めることが出来、「出合い」が果せたように思います。

(マロエラップ) 橋 ハルキ

先般は生涯の念願でありました太平洋の荒波の続く果てに思いを馳せ続けて来ましたが主人の処に逢いに行かせて頂き本当にありがたうございました厚く御礼を申し上げます。

今回の厚生省の計画がなければどんなに私達が願望しても到底現地行は無理でした。加えて遺族会による御世話の有難さを身に沁みて感じました。

あの小さな環礁未開地は想像以上でしたが、団長様以下役員の皆様によりなにより不自由なく慰霊巡拝が出来ましたことに對し重ねて御礼を申し上げます。

さてマジュロ島での東太平洋戦没者の碑竣工追悼式典には、天皇皇后両陛下の立派な生花を頂戴しかたじけなくもうやうやく拝しました。私達遺族まで参列させて頂き誠に光栄の至りと存じました。

なにさまグアム島ですら遙か遠い夢の島と想像して居りましたのに、地図での距離もその三倍以上ありマジュロ着が真夜中の十二時と本当に遠かったの一語につきまます。

亡き主人は支那事変から再度の召集を受け昭和16年12月8日の大東亜戦争と同時にフィリピンに上陸し攻略後守備に着き二年後マーシャルに転属させられました。船で一カ月を要しマロエラップに着いたと聞いて居ます。本人もさぞかし長い長い海の旅をし



クエゼリン墓地

てこんな遠くへ来てはとても生きては帰れないと思つた事と察しました。主人は両親及び幼児三人を残しての再度の出征でした。どんなにか留守家族を氣遣いながらと思うとその都度胸が痛む思いが致します。

結婚直後の戦争の為私達留守を預かる者は当時は言葉に表わせない不幸にも会いました。然し現在では成長した三人の子供達に恵まれ最高の幸福で一杯です。この事を主人の霊に報告して安らかに眠つて貰いたい一心で参加致しました。

マーシャル班の船による巡拝は、都合で出発が一日遅れましたが、マロエラップ、ウオッセ、クエゼリンと多少スケジュールは忙しかつたものの全島にて盛大なる慰霊祭も済ませる事が出来て大変嬉しく思いました。

特に遺族会長浮田様には高齢にもかかわらず御元氣と見受けましたが御自愛專一に、佐藤様共々今後共遺族会の為お尽し下さることを御願ひ申し上げます。

(クエゼリン) 服 部 くにゑ

3月17日夜、マジュロ港を出航し、舟酔いに苦しむつも再び帰ることのない英霊達の船旅を思い浮かべていた。

18日マロエラップ及びウオッセ島の慰霊巡拝を済ませ、19日比較的静かな甲板へ出て見た。遙か西の水平線にキラキラと光る物が目に入る『クエゼリ

ンだ』と誰かの声。紺碧のキヨ水道を船は進んで行く。あちこちに緑の小島が見え始めた時前もって頼んでおいた船員さんが左手を指さしながら『エビジエ島』を教えてくれた。

それは想像以上に小さな島というよりは浅瀬と言う言葉の方が適切である。緑も少なく赤ちゃけた島、この様な小さい島に海からそして空から攻撃が加えられ言語に絶する死闘が幾日も繰り返えされたとは……。どのような思いをして主人達は死んでいったのであろうか。玉碎の島故に知る由もないが、私の脳裏にあるのは若くて元氣な面影のみである。

かえつてその方がいいのだと改めて自分に言い聞かせる。静岡の香り高いお茶、酒、経典を海に流す。

クエゼリン入港十一時半いつもながら墓地はきれいに清掃されていた。『約束通り又参りました』とつぶやきながら皆様と共に好物の品を供え病気で来られなかった友の分も一緒にお参りをすする。

『クエゼリンの墓地はきれいでいいですね』とどなたかの声。お守りして下さる大里様、徳原様に心から感謝をする。参拝が終了大里様のお宅で冷めたいジュースを頂いて、再び船はマジュロに向けて出航した。

今回政府主催による東太平洋戦没者の碑竣工・追悼式と慰霊巡拝に参加させていただきましたことは、生涯忘れ

ウオッセ島



ることの出来ない思い出でございます。

マジュロの山村様はじめ皆様の変わぬ温かなおもてなし、ウオッセの桟橋でカンバさんと星空を仰ぎながら交した言葉に「帰ったら日本の皆様によるしく」とありましたが胸の奥深く浸みこむ思いがいたしました。又夕闇せまの海の上を子供達の「イヤコエ、アリガトウ」の声が何処迄も流れて来たのが今も耳に残っています。

最後になりましたが、厚生省の浜野団長様、本田様、浮田会長様、佐藤様、妹尾様同行遺族の皆様いろいろお世話になりました。誠にありがとうございました。

(ルオット) 黒川直吉

参加させて頂いたことを唯々感謝しております。強烈な印象を二つ三つ。

マジュロ空港に着いたのは15日の真夜中の12時だったが、山村さん外御婦人達も大勢出迎えてくれ、我々全員にレイをかけて下さったのは、かねて聞いてはいたものの、感激であった。

16日の竣工・追悼式は厳かに然も流れるように手際よく進められた。

式典直後船に乗ってすぐ出港との予定であったが、神戸で修理していた船の帰港が一日遅れるという大番狂わせがあり、ホテルの空室がないため、1班の男性12名は、桟橋横付中の貨客船に一夜の仮宿を求めることとなったが、文句言う者は一人もなかった。

17日は終日イライラ。上陸予定の三島のうち、一島でも上陸取止めとなつては気の毒な方が出来る。洋上慰霊祭では気が済むまい。一昼夜遅れで、マイクロ・バーム号出港。船室が少いで女性のみ船室へ。男性12名は上甲板にマットを敷いて太平洋の波頭を眺め乍らのゴロ寝式特設寝室。一人も減っていないかったのは幸せであった。

短時間乍ら、マロエラップ、ウオッセ、クエゼリンの三島に上陸出来て、型通りの慰霊祭と島内見学ができたのはありがたかった。

56年8月に私の兄は本会の慰霊団の一員としてクエゼリンに来て、幸運に

もルオットに行くことができた。(環礁36号所載)今回は、エビゼ、ブラウソンと共に、クエゼリン出港の後、海上慰霊となったのは致し方ないこと。

マジユロの最後の夜、山村さん達が私共一行45人全員をパーティーに御招待下さって、先ず「君が代」の斉唱で会を始め、子供たちの見事なダンスやら、大人たちの「仰げば尊しわが師の恩」ほか日本の歌を数曲歌って下さった。私共が忘れて了った歌詞の二番三番を歌ったのは、驚きであった。

私共全員に名産品のおみやげを頂いて恐縮した。

厚生省の浜野団長以下の職員が、私共の荷物の整理等旅行社の添乗員並みのお世話をして下さったことに感激した。

浮田会長以下70歳以上の高齢者が5名もいたのに全員無事故で、出発時よりも元気で帰国出来たのは偏に英霊の思召しと感じられた。

(マロエラップ) 山内キク

東太平洋戦没者の碑竣工、追悼式と慰霊巡拝に参加させて頂きました事を心から喜んで居ります。厚生省の職員の皆様マーシャル方面遺族会の方そして巡拝参加の団員の皆様に大変御世話様になりました。有難度うございました。

一度は主人の戦死したマロエラップ島に行つて見たい、墓参が出来たらと

長年の私の願ひでした。その念願がかない巡拝が出来ました事を深く感謝申し上げます。マロエラップ島に行き遺体を納めた場所をこの目で見る事が出来ました。安心して霊砂を頂いて参りました。

思えば遠いマーシャル、私共個人では到底行ける所ではありません。本当に有難度うございました。これでもうなにも思い残すことはありません。帰国後に霊砂はお寺の住職さんに来て頂き御経をあげて貰い、一諸にお供をして納骨堂に納め御供養して頂きました。遠い所で戦死した主人も安らかに眠ることと思います。

マロエラップの海岸から持ち帰ったサンゴもだんだん白く美しくなっています。マーシャル巡拝の記念として残ります。同行の皆様方もさぞお疲れになられたと存じます。どうか御自愛なさってお過ごし下さるよう宮崎の空からお祈りして居ります。追伸

申込みの写真本日届きました。早速県庁援護課に三人で報告御礼に参ります。有難度うございました。皆様に宜敷く御伝え願ひます。

(マロエラップ) 鳥丸栄二

日一日と暖かくなって参りました。この度は色々有難度うございました。厚く御礼申し上げます。

亡き戦友達と別れて以来遺骨はどう

なっているか、この目で見なければ忘れる事は出来ない四十年間でした。終戦後マロエラップ島では一人一人の遺骨の一部を祖国に送り、残った遺骨を一ヶ所に集めて復員しました(然し内地に届きません、箱には紙片のみでした)。

今回現地に行つてみたら遺骨は収集団がすでに持ち帰ってくれていました。この目でその場所を確認出来た事はありがたいことでした。四十年前の同島は軍施設がある場所と戦友達を埋葬した場所は百米か百五十米位の離れ島だったので現在は一つの島となつて居り、同行の皆さんに充分な案内が出来ず申訳けなく思いました。尚時間がないため島内をゆっくり見る事が出来ませんでした。海岸線歩いて現地に行けたことで満足しました。又いつの日か墓参出来る機会を楽しみにしています。

書き度い事は山程ありますが何分にも戦傷者にて手が不自由のため御許し下さいませ様、先ずは御礼まで。

(クエゼリン) 井沢なを

遺族の皆様の一行に加えさせて頂いた私は、あの東太平洋のすばらしいコバルト色に輝いた海に囲まれた島民の方に迎えられ、言葉もわからぬままに握手。清らかなお顔きれいな目をして歯、ほんとうに感激いたし、思わず熱いものを感じました。

地下に眠る御苦勞なされた兵士達遠く離れた日本をあとにしてもどうか安らかにおむつて下さい。二度と起したくない戦争、祈る心の中ではそのことばかりくりかえしてやみません。

島の皆様静かに兵士達の遺霊を守つて下さい。マジユロに碑を建立して下さいまして有難度うございました。又関係者の皆様遺族の方々大変有難度うございました。

(クエゼリン) 甲斐キミエ

拝啓 花木もえ出る季節となりました。皆様には御精励の事とお喜び申し上げます。この度の東太平洋慰霊巡拝に際しましては皆様の暖かい御厚情で参拝することが出来ましたことを厚く御礼申し上げます。御礼がおそくなり申訳ありませんでしたが本当にありがとうございます。末筆ながら皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。先ずは御礼のみ 敬具

(タラワ) 大森百与

春とは名のみ肌寒い日がつづいております。本日は慰霊巡拝のスナップ写真お送り下さいましてありがとうございます。長途の巡拝旅行のお疲れを癒す暇もなく団員全員に写真送付の手配はか本当に大変なことでございました。お疲れの出ませぬ様に呉々もお気をつけ下さいませ。さて主人の眠っている戦場跡にお詣

り出来る日を何年も何年も夢見ていました。3月14日とうとうその日が来ました。どんな所だろ無事に行けるの
だろうかと不安で一杯でした。

道中無事にマジュロに着き広大な平和公園の中に盛大な慰霊祭は胸の引きしまる思いでした。

17日ギルバート班は玉砕の島タラワに向かい、第一に感じたことは、よくもこんな遠い所、不自由な所、食べる物も充分ではなく、そして水もなく、どんなにか苦しい思いをしたのだろう

鎮 魂 賦

(クェゼリン) 浮 田 桜 代

南みなまの海に果てたる兵悼ひんたうみ

大御心の生花香ぐわし

立ち並ぶ椰子は戦いくさを知りぬらん

胸の痛みてしばしむせびぬ

魂たまあらば黒潮に乗り帰り来よ

はらからの待つなつかしの地に

花捧げ香の煙のゆらめきて

弟 汝ななはいづべにいます

(弟の身になって)

水漬く死を誓ひて果てし我なれど

姉を迎えて環礁に哭く

明日をも知れぬ命、両親のこと、妻のこと、さぞ帰りがたかったことだろうと当時を偲び涙々の連続でした。

巡洋出来る日が来るなんて思わなかった私はなおのこと、主人も地下でどんなにか喜んでくれた事と思います。別れてから現在に至るまでの報告を済ませました。これで思い残すことはございませぬ。

役員の皆様本当にありがとうございました。今後共よろしくお願い致します。まだまだ朝夕は寒さがつづきますどうか御健康に御留意の上御活躍の程お祈り申し上げます。

(タラワ) 西 村 金 一

かねての念願、政府主催による東太平洋慰霊巡拝団ギルバート班に参加させて頂いたことを感謝して居ります。

現地島民との誠意と信頼と友情あふる交流こそが平和の礎石である事を確信して疑いませぬ。私の終生忘れることの出来ない現地慰霊は無上の欣びであり感激そのものであります。

昭和17年の春、海軍々属として召された弟西村喜造が赤道直下の環礁の基地建設に献身している事を知ったのは南進の半年後であった。初期の戦況は我が方に有利であったものが、ミッドウェー海戦での大敗以来一転して防禦態勢をとらざるを得なくなった。

太平洋方面の戦士が如何なる決心と覚悟を強いられたかを、今回の現地巡

南瀛マリア観音



拜の行程の中で十二分に知り得た。軍事郵便の文面で国家総動員、一億玉砕、撃ちて止まん、等の言葉は第一線の戦士たちの悲壮な叫びで内地へ呼びかけられた事でした。

遂に日米両軍の一大決戦場となったギルバート諸島の要衝ベント島の三日間に亘る敵の総攻撃に、米軍に莫大な損害を与えたものの龍大な物量攻撃のため玉砕したのはこの上ない痛恨事であった。

マーシャル諸島共和国マジュロ島に建立された、東太平洋戦没者の碑の竣工、追悼の式典には大統領閣下がおいでになり、多数の現地国民の賛同の下に肅然と挙行された事は誠に意義深いことであった。

国旗掲揚塔に日本とマーシャル諸島共和国旗のほか米国旗と国連旗が並んで上っていたのが印象に残った。昭和51年11月の玉砕記念日にタラワ島へ民間慰霊団として参加し、その際に日米両軍の勇士の遺骨を見ましたが、それが今回、南瀛の碑の地下に埋葬された由、尚之を守護する形のマリア観

音像に英霊も安らかに眠り給うたのではないかと感じ入りました。

キリバス共和国々民が日本人は旧友であるというように笑顔で寄ってくる光景は印象的であった。日本人の血が交っているのではないかとさえ思われる程我々とよく似た顔つきの男性もいた。今回タラワにて特に目についたのは自動車とオートバイの激増ぶり、一本道を相当なスピードで若い男女が走っているのを見た時、交通法規や交通安全のノーハウを導入しなければと思った。果せるかな同島の病院は最近交通事故患者が一番多いという事を聞いた。

当地在勤の国際協力事業団派遣技術員新藤氏より米人の EDWIN P. HOYT の原書 『STORM OVER THE GILBERTS』と、新書を頂いた。その夜ホテルにて辞書を片手に読んだ。米人従軍記者シャーロット著の『TARAWA』とは異なり、体系的な戦史で戦後の日米両国の記録をまとめてあり、つい眠るのを忘れて読みふけたが昼の疲れのせいかわらぬ間に本を片手に寝入って終ったが、突然バラバラと音を立てて降り出したスコールに眼を覚まされた。

雨脚が庭の珊瑚礁の白砂を叩いているのを見てこの下には日米両軍の遺骨が埋まっているかも知れぬと思わず「南無阿弥佞仏」と口ずさみ合掌した。スコール一過のあとは急に涼しく

なり椰子の葉音と太平洋の波音の南洋リズムのみが聞える静寂に戻った。仰げばつき抜ける程空は澄み星のきらめきが鋭い。オリオン座や南十字星を探すと眼が冴えて来るといふペンシ島のホテルでの一夜は忘れられない思い出となった。

マーシャル班と我々ギルバート班が無事巡洋を終えマジロ島で合流したその夜は同島の日系人の長老その他がエンターテイメントパーティーに招待して下さるとの朗報が入った時、私は、日本マーシャル両国の交流が実現し有終の美が飾れると思った。



見事な合唱

具志氏経営のリクロックでの合同パーティーは日本語の歌謡曲や行進曲の交歓の外、現地島民の二世、三世のチームワークのとれたダンスや音楽を楽しむことが出来ました。帰国の途次サイパン島に着陸したが

南瀛マリア観音像建立の経緯

田 中 雄 吉

ここからB-29が連日連夜日本本土へ爆撃や焼夷弾攻撃をしかけたのだと思、戦争は絶対に繰り返してはならないと痛感しながら雪の残る成田空港に降り立った。

皆様に御承知のように、昭和57年11月23日キリバス共和国のタラワに南瀛之碑が建立され、ギルバート関係者の心の拠り所となっております。

さて、昨年末この南瀛之碑の附属としてマリア観音像を寄贈したいとの申入れがありました。南洋貿易株式会社林徳五郎様からであります。栗林様はキリバス共和国の初代名誉領事であり(財)南洋群島協会会長でもあります。

このマリア観音像は、昭和47年に栗林様の尊父、元南洋興発株式会社社長故栗林徳一様がいそがしいの平和公園に捧げられたものと同型のものであります。当時三休作られ、一体は東京・小石川の源覚寺にまつられており、一体は製作者上田邦介氏が秘蔵されていたものを、設計者尾山轍画伯の斡旋により、本会のごとをよく御承知の栗林様から本会に寄贈されたものであります。

本会の役員会は右申し入れをうけて、十分に討議の末、宗教色の強いも

のではあるが、弥勒菩薩像と十字架と日輪を組合せており、わが国民の大多数の信教である仏教、キリスト教、神道の精神を包含して、慈悲と愛と清明心を象徴していること、キリバスの慰霊公園の聖域に納まりがよく、住民の共感を得られること等を勘案し、受入れを決断いたしました。

設置工事についてはイエレミア・タバイ大統領閣下より即決の許可が得られました。

台座の設計は尾山 轍画伯にお願いし、現地への輸送については向南通輸(株)、パリハイサービス(チャイナ・ナビゲーシオン、三井OSKライン、日本郵船(株))の御協賛を頂き、現地での組立て、工事は大日本土木(株)、鈴木正夫様、JICA駐在員新藤岩男様、D&Aエンジニアリング(株)が奉仕され、関係者一致の御協力のおかげで3月18日に見事に竣工いたしました。

位置は南瀛之碑のすぐ後で、碑を見

守り、守護するかのように見えます。折も折、政府派遣慰霊巡拝団として同島を訪れた浮田本会会長以下の会員は、3月18日にマリア観音像の除幕式を行い、鎮魂と平和への祈りを捧げてまいりました。

マリア観音像を寄贈された栗林様はキリバス始め南洋の諸国とは永年貿易振興を通じて深い関係にあり、二度と再び太平洋を戦場にしてはいけない、太平洋の中央に位置するキリバスは、広大な海域を領しこれから非常に重大な役割りを占めるのではないかと、情熱をこめて申されております。

今回のマリア観音像建立の費用は総て栗林様関係者の寄進で支弁され、本会会員の寄附金はそのまま将来の維持基金として備蓄されることになりました。関係の皆様方に、会員と共に厚く御礼を申し上げます。

小石川「源覚寺」の

戦歿者慰霊祭に参列して

井 上 賀 雄

会長、副会長他大ぜいが現地巡拝に出発した三月十四日は時ならぬ大雪に見舞われましたが、翌十五日はうって変わった晴天に恵まれて、小石川の源覚寺のマーシャル、ギルバート諸島戦歿者慰霊祭に参列しました。

栗林徳五郎様の御発意により、タラワに建立した南瀛マリア観音像の法要を

兼ね、同方面海域の戦没者の御冥福を祈り、平和への願いを高揚しました。集ったのは、栗林様を筆頭に、キリパス共和国名誉領事室、南洋貿易(株)、(株)栗林商会、(財)南洋群島協会の各代表者と本会からは昼間さん、田中(夫人)さんと私の三人でした。

三好住職の迫力ある読経に、熱情溢れる表白文に、私共は曾つてない深い感動を覚えました。

東太平洋戦没者の碑竣工、追悼式に届けとばかり、朗々と絶唱される師のお姿が今も臉に残ります。

源覚寺には砲弾の跡生々しい一つの梵鐘があります。「汎太平洋の鐘」と呼ばれるこの鐘は、元禄三年に信徒によってこの寺に寄進され、昭和12年にサイパン島南洋寺に寄贈されました。

昭和19年7月、同島玉砕後は暫く行方不明となっていました。昭和40年に北米テキサス州にあることがわかり、紆余曲折を経て昭和49年奇蹟的に生還したものです。

三好住職は、今年7月、サイパン玉砕の日に、鐘を携えて現地に赴き、平和への願いをこめて百八つの鎮魂の鐘を撞く由です。

この寺には又、南洋群島平和慰霊像(弥勒菩薩像)がまつられています。昭和47年にサイパン島スーサイド・クリフに開眼されて、国籍を問わずサイパンで亡くなられた人々の霊を慰めておられる弥勒菩薩と、全く同型です。

そして右の二体と全く同一のものが今回栗林様のご好意により本会に寄贈され、タラワに建立されました。

又、当寺の境内には、南洋群島協会の事務所もあります。

当源覚寺と私どもとは深い因縁の絆に結ばれていることを感じました。心ある方はどうかお詣り下さい。

浄土宗 源覚寺

(通称 こんにやくえんま)

文京区小石川二―二三―一四

電話03―81―四四八二

(地下鉄都営三田線春日駅下車)



タラワのマリア観音

昭和五十九年

四十年祭 総会 直会

そこ、ここに積る雪に、足もとの悪い中を、八時にはもう30名程お見えになりました。夜行列車で早朝到着との事でした。会長さんも元気なお姿で、皆さんのご挨拶に応じておられます。

受付で、総会議案の他に会の歴史を綴った年表と環礁の総目次を頂く。

加えて、2月1日の読売新聞の記事『玉砕の島、タラワ島にマリア観音像平和の願い込め、遺族会が建立へ』の切りぬきが、配られました。

午前10時会員と来賓一五九名は手水で心身を清め拝殿に参入しました。

四十年の歳月、永く短く走馬灯のようには思いめぐらず内、会長さんの祭文に涙ぐみ、み魂安かれと合せた手を、握り締めました。

四十年祭の献楽は、楽水会(海軍軍楽隊出身者の会)の皆様のご奉仕を頂き感激一入でした。退下の折御神酒と御神饌、御札を頂戴致しました。

参集所で、楽水会の演奏数曲を聞き松平宮司様、栗林徳五郎様(キリパス共和国名誉領事)堀籠(ホリゴメ)楽水会会長様の御挨拶を頂きました。

総会は、田中常任幹事の司会で、浮田会長の挨拶があり、その中に、橋口副会長と土岐監事が辞任されたことが発表されました。ついで、大高幹事が

議長となり、会務報告を佐藤副会長、決算報告(別項)を井上常任幹事、監査報告を秋山監事が行い夫々異議なく承認されました。

次に佐藤副会長から会則改正案の説明があり、中でも、毎年2月6日に行ってきた慰霊祭、総会の日を、若い人達が参加し易くなるよう「2月の第2日曜日」と改めるのは大層大きな改正点でしたが、改正の趣旨を理解されて誰一人異議なく全員賛成し原案通り可決しました。(改正全文は12頁)

次の議案の会務計画と予算案(別項)も佐藤副会長提案通り可決しました。その後、3月に行われる東太平洋戦没者の碑竣工・追悼式参列について説明があり、靖国神社の映画「光の祭典」をビデオで拝見しました。

直会 旅行

参加者は65名。5名は電車であとはバスにお弁当や飲みものを積み和やかに出発しました。今日の宿は、湯の町熱海伊豆山のホテル水葉亭。本会の直会旅行としては最高クラスです。早々と四時に到着。ゆっくりに温泉を楽しみ、つもる話の花が咲きました。

台湾ショウウのサーピスもあり、お国自慢の歌あり踊りあり、そして直会旅

行15回目記念のクジ引きが行われました。費用は会費の一部を当て、用意しました。佐藤副会長の寄贈品で、全員何らかの賞を手に入れました。翌朝はゆっくりして十時出発。海岸線の美しさに目をとられている中、バスは鎌倉へ。光明寺にお参りし、素晴らしいお庭を拝観し、大仏様に両手を合せ、再び車中の人となる。

横浜中華街万珍楼で三時のヤム茶を頂き、中国の雰囲気に取りました。バスは横浜駅と東京駅に立ち寄り、来年を約してお別れし、予定通り九段会館に帰り着きました。(佐竹エス)

靖国神社でこう考えました

東京 晝間志津子

遺族会が結成されてから二十年経ちました。遺影を偲び乍ら毎年大鳥居を仰いだ方々の多くは年老いて何時の間にか参加者名簿から消えてゆくのは淋しい限りでございます。

私共は、何気なく当然のように、世界にも稀な平和の恩恵をうけています。この平和は戦死された方々の尊い贈り物であることを、忘れがちになってはいないでしょうか。

英霊に感謝し、英霊をお慰めする誠心を受け継いで貰うにはどうしたらよいかを真剣に考えなければと思いません。

第20期決算報告書 (自58.1.1 至58.12.31)

マーシャル方面遺族会

第21期一般会計予算

(自59.1.1 至59.12.31)

2. 一般会計収支計算書

2. 一般会計財産目録 (58.12.31 現在)

<収入の部>

科目	金額
前期より繰越	1,568,735
会費(過年度分)	240,000
会費(当年度分)	1,202,000
寄附金等	2,087,845
受取利息	38,928
雑収入	25,000
小計	3,593,773
合計	5,162,508

<支出の部>

科目	金額
慰霊費	142,500
運営費	1,909,815
刊行費	454,730
印刷費	29,960
通信費	105,810
事務所借用料	290,912
振替払込料	33,300
事務用品費	68,775
会議費	5,652
雑費	14,250
予備費	0
退職金勘定繰入	100,000
小計	3,155,704
次期へ繰越	2,006,804
合計	5,162,508

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	38,818	前受会費(59年度分)	605,000
普通預金	1,547,426	前受会費(60年度分)	107,000
定額貯金	1,700,000	前受会費(61~66年度分)	34,000
振替貯金	147,560	計	746,000
		預り金(旅行)	608,000
		預り金(泊)	73,000
		預り金(宿)	681,000
		小計	1,427,000
		次期へ繰越	2,006,804
合計	3,433,804	合計	3,433,804

特別会計収支計算書

<収入の部>

前期より繰越 3,000,000

<支出の部>

当期支出 0

<次期へ繰越>

3,000,000

退職金勘定収支計算書

<収入の部>

一般会計より繰入 100,000

<支出の部>

当期支出 0

<次期へ繰越>

100,000

<収入の部>

科目	金額
前期繰越金	2,006,804
会費(過, 当年度分)	1,200,000
寄附金等	1,800,000
受取利息	50,000
雑収入	25,000
小計	3,075,000
合計	5,081,804

<支出の部>

科目	金額
慰霊費	420,000
運営費	2,000,000
刊行費	500,000
印刷費	50,000
通信費	150,000
事務所借用料	350,000
振替払込料	50,000
事務用品費	70,000
会議費	50,000
雑費	30,000
予備費	50,000
ギルバート部会協賛	200,000
小計	3,920,000
次期へ繰越	1,161,804
合計	5,081,804

マ ー シ ャ ル 方 面 遺 族 会 会 則

昭和 38 年 6 月 29 日 制 定

改 正 (40 ・ 2 ・ 6 41 ・ 2 ・ 6 43 ・ 2 ・ 6 59 ・ 2 ・ 6)

第一条 (名称) この会は、マールシャル方面遺族会といいます。

第二条 (事務所) この会の主たる事務所は東京都に置き、必要に応じ、全国各地に支部を置きます。

第三条 (構成) この会は、太平洋戦争中マールシャル諸島およびギルバート諸島で戦歿した者の遺族を会員として構成します。

2 前項に該当する者は第十条の会費を納入することにより、この会則に定める会員の権利を行使することができます。

第四条 (目的) この会は、前条に示す戦歿者の英霊をお慰めすることを目的とします。

第五条 (活動) この会は、次の活動を行います。

一、毎年二月第二日曜日に靖国神社において慰霊の祭典を行います。

二、第三条に示す諸島に残された遺骨の収集につとめます。

三、現地に建立した慰霊碑の維持管理をはかります。

四、会員の相互扶助および親睦をはかります。

五、その他この会の目的達成に必要なこと。

第六条 (機関) この会の機関は、次のとおりとします。

一、総 会

二、役員会

2 定期総会は、毎年二月第二日曜日に靖国神社で開催します。

3 会長が必要と認めるときは臨時総会を開催します。

4 役員会は、必要に応じ随時開催し、会務の企画、運営実施にあたります。

5 各会議は会長が招集し、議事は出席者の過半数によって決めます。

第七条 (役員の種類、職務および給与) この会に次の役員をおきます。

一、会 長 一名

二、副会長 若干名

三、常任幹事 三名以内

四、幹 事 若干名

五、監 事 三名以内

2 会長は、この会を代表し、会務を総理します。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理します。

4 常任幹事と幹事は、会長の指示により会務を分掌処理します。

6 役員には給与を支払いません。

第八条 (役員) 役員は、次のとおり行います。

一、会長および監事は、総会で会員の中から選任します。

二、副会長、常任幹事および幹事は、会員の中から会長が指名します。

2 役員は、任期は、二ヶ年を一期とし、再任できます。

第九条 (名譽会長、顧問、相談役および篤志会員) この会に、役員会の決定により名譽会長、顧問、相談役および篤志会員をおくことができます。

第十条 (経理) この会の経費は、総会で定めた会費、寄附金および、その他の収入によって支弁します。

第十一条 (会計年度) この会の会計年度は、毎年一月一日より十二月三十一日までとします。

第十二条 (決算) この会の決算は監事の監査を経た後、総会に報告され、その承認を得なければなりません。

第十三条 (諸記録) この会の会務および会計は正確に記録され、会員はいつでも閲覧することができます。

第十四条 (支部の設置) この会の支部の設置は、会員の要望により役員会で定めます。

第十五条 (支部の機構および運営) この会の支部の機構および運営は、会長の承認を得て支部で定めます。

第十六条 (会則の改廃および解散) この会則の改廃および解散は総会で定

めまします。

2 解散の際保有する資産は靖国神社に奉納します。但し総会の決議により、一部をこの会の目的に副う事業に寄附することができます。

毎年の慰霊祭は

二月第二日曜日に

会 則 改 正

別項に述べたように、今年2月6日の総会で、会則の一部改正がありましたが、その中に慰霊祭定例日の変更があります。

本会は二十年間、毎年2月6日に慰霊祭を行っていましたが、来年からは「2月の第二日曜日」に慰霊祭と総会を行うことになりました。

来年は2月10日になります。変更した理由は、慰霊祭に一人でも多く参加して頂きたい、若い方々に沢山来てほしい、そしてこの会を何時までも続けていってほしいからであります。

本会は、昭和43年にクエゼリンに慰霊碑を建て、昭和57年にはタラワに南瀛之碑を建てました。英霊は勿論のこと、マールシャルやキリバスの皆様も本

会が何時までも続くものと信じておられます。この信頼を裏切らないために私共は、次の時代の方々がこの会を引

ついでやって頂けるようにつとめなければなりません。会員皆様の御協力を切にお願い致します。



マーシャル諸島情報

マーシャル・アイランズ・ジャーナル紙より

☆3月2日号より

在留邦人 50名

マジュロ発 2月29日

出入国管理当局者の発表によると、首都マジュロ在住の外国人数はアメリカ合衆国118名、フィリッピン97名、日本50名、キリバス40名、台湾20名、ツバル20名、英国11名、フィジー7名、マレーシア・スリランカ・スウェーデン各1名となつて

いる。

他の主な島ではクエゼリンの基地に三千名のアメリカ軍関係者が在住している。

☆3月2日号より

マグロ漁

マーシャル近海では2・3月は大きなマグロの捕れる月であるが、今年も例外ではなかった。

先週出漁した地元の漁師たちは70〜100ポンド(約35kg〜約50kg)フランスの大きな成果を得た。ある漁師は102ポンドのものを筆頭に合計600ポンドも釣り上げた。最大は102ポンドであった。

☆3月16日号より

ダニー・ワセ氏優勝

ビリヤード大会において、ダニー・ワセ氏が優勝し、賞品のビールのギフトセットを持ち帰った。ワセ氏は昨年続いたの優勝である。

(注) 訳者はワセ氏が数年前に漁師組合のマネージャーとして来日された時に本

会を通じて面識を得たのであります。が、まさかこの様な特技の持ち主であったとはおどろきました。マーシャルではビリヤード(玉突き)に人気があります。なお氏は本会でもおなじみのワセ・三郎氏の息子さんであります。優勝おめでとうございます。

☆3月29日号より

平和公園奉納

マジュロ発 3月16日

戦歿者の記念碑でもある平和公園の完成を祝う式典がアジェルテークの小さな島で行なわれた。式典は日本の厚生省のツネオ・ハママツ氏の司会によって始められた。

次に尊敬する厚生次官のヒロシ・ユ

カワ氏が祝詞を述べた。氏は戦歿者のその死の意味を強調された。氏は過去を振り返ってみての無念さの深い感慨を述べ、日本が大戦中に失われたかけがえない命によって償われた平和の重要性を示すこの碑の建設を切望して

いた事に触れた。氏の望みはこの碑がマーシャル・日本両国の友好と平和の象徴となることであると述べた。

同じく厚生省のキヨシ・イシイ氏は建設経過について報告した。特に公園

はマーシャルの人々のくつろぎの場となるであろうと述べた。また氏はマーシャル政府と日本政府の協力について触れ、建設に協力した遺族会とその会員に対して深い感謝の意を表明した。

公園と碑は日本の著名な芸術家であるキヨノリ・キクタケ氏がデザインし、銘板は日本の彫刻家のヒロシ・オガワ氏が製作した。

建設担当はトーカーイコウギョウであった。碑は前面が90センチメートル四方でその正面は日本の方角に向けられている。

☆5月4日号より

マジュロ発 5月2日

マーシャル郵政当局は本日より郵政事業を開始する。まずマーシャル諸島共和国独自の切手が発行される。最初の特別発行切手は4種類である。

(注) 諸島内の郵便事業等のマーシャル独自の事業がスタートしたようです。

☆5月4日号より

マーシャル諸島内の航空便について

マーシャル航空によりますと、現在(5月)マジュロよりクエゼリンへは週7便、ヤルト、イネ・アルノ、タインック・アルノへは週3便、ミレには週2便、アウル、アイルック、リキエップ、アイリングラップ、メジチ、ウトロック、ノモリック、マロエラップ、ウォッゼ、キリには週1便、エニウエトックへは隔週に1便が飛んでいます。

料金は大人1名当りマジュロよりクエゼリンが85ドル、ヤルトまでが55ドル、マロエラップまでが46ドル、ミレが36ドル等となっております。

(注) 詳しい資料を御希望の方にはコピーを差し上げますので本部にお申出下さい。

☆5月11日号より

『潜水取材』

マジュロ発、5月11日

東京12チャンネルテレビの取材班が4月27日より5月9日までの13日間に亘ってマーシャル諸島を訪れた。一行はマジュロ、アルノ、ルンガ、タイナックなどの島々での潜水取材が目的であった。取材班は40分間のぼるビデオテープを撮り、それらは6月初旬に1時間の番組として放映される。

(注) 6月15日に放映された。(山口良二訳)

寄 附 者 芳 名

(敬称略)
(四〇二名)

本欄に掲載の会員各位は、年度会費御完納の上の御寄付であり
本会運営に寄与するところ多く役職員一同いつも感謝申し上げます
おります。一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう留意致しま
すので今後共御協力頂きたく御礼と共に御願ひ申し上げます。
(昭和58年11月1日から昭和59年5月31日までに入金の分)

篤志会員その他

- 一〇〇〇〇 嘉村 栄殿
- 一〇〇〇〇 香月 正紀殿
- 一〇〇〇〇 鈴木 寅雄殿
- 一〇〇〇〇 馬場 直人殿
- 一〇〇〇〇 中島新之丞殿
- 日本通運(株)東京航空支店
- 外販センター殿
- 高田源次郎殿
- 六〇〇〇 平林 和夫殿
- 五〇〇〇 土屋 太郎殿
- 古木 秀策殿
- 矢崎 寧之殿
- 松丸 知行殿
- 川橋 省三殿
- 南洋群島協会殿
- 井上 義夫殿
- 三〇〇〇 高野 庄平殿
- 三〇〇〇 十二 徳次殿
- 三〇〇〇 松平 永芳殿
- 二〇〇〇 小林 重雄殿
- 二〇〇〇 長谷川 博殿
- 一〇〇〇 福田 呉子殿
- 一〇〇〇 進藤 進殿
- 三〇〇〇 兄 黒沢 克巳
- 三〇〇〇 妻 白山光枝子
- 一〇〇〇 母 三関 ミン
- 一〇〇〇 長女 伊藤 フジ
- 一〇〇〇 妹 岩川 あい

青森県

- 一〇〇〇 長男 大野 優
- 一〇〇〇 妹 小山キミ子
- 一〇〇〇 兄 小笠原岩勝
- 一〇〇〇 妻 工藤 ハナ
- 一〇〇〇 母 田中 ロク
- 一〇〇〇 妻 塚原 ハナ
- 一〇〇〇 妻 伝福 ちゑ
- 一〇〇〇 妻 本堂 テフ

岩手県

- 三〇〇〇 母 刈屋みさを
- 三〇〇〇 妻 菅原 キイ
- 一〇〇〇 弟 伊勢 照男
- 一〇〇〇 妻 平形いせこ
- 一〇〇〇 妻 松木 孝子
- 一〇〇〇 兄 卯花要一郎

宮城県

- 一〇〇〇 弟 伊勢 照男
- 一〇〇〇 妻 平形いせこ
- 一〇〇〇 妻 松木 孝子
- 一〇〇〇 兄 卯花要一郎
- 一〇〇〇 兄 小室舜司郎
- 一〇〇〇 妻 奥山 きの
- 一〇〇〇 妻 小前 ミヤ
- 一〇〇〇 妻 近藤キクエ
- 一〇〇〇 姉 佐藤 敏子
- 一〇〇〇 兄 関山富一郎
- 一〇〇〇 妻 相馬 ツキ
- 一〇〇〇 妻 島山 タカ

秋田県

- 一〇〇〇 妻 奥山 きの
- 一〇〇〇 妻 小前 ミヤ
- 一〇〇〇 妻 近藤キクエ
- 一〇〇〇 姉 佐藤 敏子
- 一〇〇〇 兄 関山富一郎
- 一〇〇〇 妻 相馬 ツキ
- 一〇〇〇 妻 島山 タカ

山形県

- 二〇〇〇 妻 丹野 アサ
- 二〇〇〇 妻 渡辺 ミノ

福島県

- 三〇〇〇 妻 石橋 節子
- 二〇〇〇 姉 富田 ミツ
- 一〇〇〇 妻 馬場 嶺雄
- 一〇〇〇 妻 吉津みどり

茨城県

- 一〇〇〇 妻 日出山 光
- 一〇〇〇 妻 矢吹 はま
- 一〇〇〇 妻 若狭 明光
- 一〇〇〇 母 遠峰 ヒデ
- 一〇〇〇 母 宮内 はつ
- 一〇〇〇 兄 富田 保

栃木県

- 四〇〇〇 父 佐山 晃重
- 三〇〇〇 妻 田島 幸松
- 三〇〇〇 妻 猪瀬 ナカ
- 二〇〇〇 妻 菊地 彦亘
- 一〇〇〇 母 神山 さく
- 一〇〇〇 弟 木村恒三郎
- 一〇〇〇 兄 田名綱武夫

群馬県

- 二〇〇〇 母 森 ゆき江
- 一〇〇〇 長女 若林百合子
- 一〇〇〇 妻 北原ひで子
- 一〇〇〇 妻 小谷中せい
- 一〇〇〇 妻 柴田 貞子
- 一〇〇〇 妻 土屋トミエ
- 一〇〇〇 妻 藤田きよせ
- 一〇〇〇 妻 浅野 チカ
- 一〇〇〇 妻 小田原利子
- 一〇〇〇 長女 福島 レイ
- 一〇〇〇 妻 山下 みつ
- 一〇〇〇 妻 菅井せい子
- 一〇〇〇 妻 岡安 タネ
- 一〇〇〇 妻 栗原 マスエ
- 一〇〇〇 妻 近藤 マスエ
- 一〇〇〇 妻 橋本 強
- 一〇〇〇 姉 加瀬 よし

千葉県

- 一〇〇〇 妻 津久井艶子
- 一〇〇〇 妻 櫻井 一正
- 一〇〇〇 弟 及川 次郎
- 一〇〇〇 妹 石川 きみ
- 一〇〇〇 妻 川間 つね
- 一〇〇〇 妻 高安 コト
- 一〇〇〇 妻 芳賀タツエ
- 一〇〇〇 妻 広原 チヨ
- 一〇〇〇 妻 相川 孝夫
- 一〇〇〇 妻 谷澤 英子
- 一〇〇〇 弟 柴崎 理喜
- 一〇〇〇 父 山室友次郎

東京都

- 二〇〇〇 妻 黒川 文江
- 一〇〇〇 妻 小泉 エス
- 一〇〇〇 妻 佐竹 文江
- 一〇〇〇 妻 鈴木つな子
- 一〇〇〇 妻 中村喜久代
- 一〇〇〇 母 水野 はな
- 一〇〇〇 妻 井上 賀雄
- 一〇〇〇 妻 岩浪きよ子
- 一〇〇〇 妻 木村 久子
- 一〇〇〇 妻 佐藤 宗五
- 一〇〇〇 妻 浄永 孝
- 一〇〇〇 妻 高橋 鎮夫
- 一〇〇〇 妻 佃 喜美
- 一〇〇〇 妻 土岐 達雄
- 一〇〇〇 妻 區 名
- 一〇〇〇 妻 橋口 昭利
- 一〇〇〇 母 晝間 樂平
- 一〇〇〇 兄 吉田 義吉
- 一〇〇〇 兄 田中 雄吉
- 一〇〇〇 妹 番場 信子
- 一〇〇〇 妻 間々田やす
- 一〇〇〇 妻 小野 リエ
- 一〇〇〇 妹 宇田川ひさ
- 一〇〇〇 弟 菅沼 清
- 一〇〇〇 母 吉田やよい
- 一〇〇〇 妻 六軒つる子

神奈川県

- 四〇〇〇 長女 荒木 常子
- 三〇〇〇 妹 坂本美枝子
- 三〇〇〇 兄 五十嵐孝三
- 三〇〇〇 兄 飯島浩一
- 三〇〇〇 母 石谷 トシ
- 三〇〇〇 姉 内海 静枝
- 三〇〇〇 母 小島 ミツ
- 三〇〇〇 兄 齋藤耕太郎
- 三〇〇〇 妻 齋藤 幸江
- 三〇〇〇 長女 菅谷喜代子
- 二〇〇〇 弟 菅沼 昇
- 二〇〇〇 妹 山口 裕子
- 二〇〇〇 妹 内田 淑子
- 二〇〇〇 妻 栗原 利雄
- 一〇〇〇 妻 原 富子
- 一〇〇〇 弟 江間正二郎
- 一〇〇〇 弟 佐々田良二
- 一〇〇〇 妻 竹本 正平
- 一〇〇〇 妻 鳥居ミサヲ
- 一〇〇〇 妻 中田 テル
- 一〇〇〇 妻 野田 ウラ
- 一〇〇〇 妻 長谷川 寛
- 一〇〇〇 妻 福原 キチ
- 一〇〇〇 妹 星野 綾子
- 一〇〇〇 兄 松井 直一
- 一〇〇〇 兄 森田 幸吉
- 一〇〇〇 妹 吉松 貞子
- 一〇〇〇 妻 金子 武晴
- 一〇〇〇 妻 佐藤 登志
- 一〇〇〇 兄 嶋田 正彦
- 一〇〇〇 妻 佐藤 貞子
- 一〇〇〇 妻 落合 てふ
- 一〇〇〇 母 沖立 キヨ
- 一〇〇〇 姉 川名 福松
- 一〇〇〇 妹 熊沢 静子
- 一〇〇〇 兄 佐藤鉄太郎

